

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 8 月 4 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870102732		
法人名	医療法人 博愛会		
事業所名	グループホームしらさぎ		
所在地	松山市会津町1-19	(電話) 089-951-7246	
管理者	家木美貴子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 6 月 2 日	評価確定日	平成 20 年 8 月 6 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 5 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 8 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 6 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 5 月 1 日事業所記入)

利用者人数	17 名	男性 7 名	女性 10 名
要介護 1	4 名	要介護 2	4 名
要介護 3	4 名	要介護 4	2 名
要介護 5	3 名	要支援 2	名
年齢	平均 86.6 歳	最低 75 歳	最高 97 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者が地域医療に携わる中で、認知症の方の増加とその受け皿の必要性を感じて立ち上げたホームである。交通量の多い道路に面しているが、中庭が広く、居間からの眺めは自然があふれ、開放感がある。ホーム近辺の病院にかかっていた利用者が多く、入居後も引き続きかかりつけ医を変更せず、利用者のことをよく知る主治医の継続した受診を支援している。加えて、認知症専門医の往診や運営者のバックアップ、看護職員の配置等で、医療面でも利用者や家族の安心を得ている。コンビニエンスストアやスーパーが近くにあり、利用者は歩いて買い物に出かけ

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
運営推進会議を活かし、地域行事への参加等、地域とのつきあいを徐々に深めている。また、自己評価を全職員で行い、今後取り組みたいことを明確にしたうえで共有している。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
職員一人ひとりが全ての項目について検討し、わかる範囲内で自己評価している。それを基に管理者がまとめ上げ、さらに運営者が補足している。完成した自己評価は拡大して見やすくし、全職員が目を通してしている。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
地域とのつながりを深めていくために、民生委員や高齢クラブの方から具体的な案が出されている。地域のサロンへの参加や、災害時に地域の協力が得られるよう、防災広報委員に協力依頼すること等を勧めていただいております、今後取り組みたいと考えている。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
面会時には声をかけ、利用者の暮らしぶりについて話し、家族が遠慮なく意見や要望を出せるような雰囲気づくりを心がけている。また、ホーム行事や運営推進会議でも意見を出してもらっている。出された意見については全職員で話し合い、改善に努めている。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
自治会に加入し、回覧板を回してもらい、地域行事である夏祭りや地藏盆に参加している。また、ごみの当番に加わり、2か月に1回ごみ置き場の管理、清掃を行っている。利用者の外出時に、顔見知りの地域の方から連絡をいただく等の協力を得ている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム しらさぎ(ユニット名) 1F記入者(管理者)
氏名 家木美貴子評価完了日 平成 20 年 3 月 23 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 利用者の方が住み慣れた場所で安心して、その人らしく過ごせるよう「自分らしく」を理念にあげている。 (外部評価) 開設時からの「自分らしく」という理念に地域密着型サービスとしての役割を加え、利用者が地域行事へ参加し、地域の方々との交流を通して、地域生活を継続させながら自分らしく過ごすことができるよう支援していくことを謳っている。	※	その人らしく生活することが出来るケアをスタッフ全員で取組んでいきたい。 ○趣味(手芸・料理・園芸・詩吟・書写) ○外出・買物 ○関係性の継続・地域生活の継続
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 申し送り、ミーティング時、理念に触れ理念を通じて具体的なケアについて話し合っている。 フロアーのよく目に付く場所に掲示している。 (外部評価) 利用者が自分らしく暮らすことができるよう、本人の希望に沿った支援をしていくことを申し送り時等に話し合い、一人ひとりを大切にケアを実践している。	※	新職員にも理念を通しての具体的なケア(言葉かけ・態度・記録等)を理解できるよう取組みたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ご家族には、来所時や毎月1回発行の『ホーム便り』にて伝えている。	※	地域の方々にも事業所の実践内容を伝えていきたい。 ご家族との話し合いの場を計画的に持ちたい(1ヶ月に1回)

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 隣のコンビニエンスストアへは日常的に買物に出かけているがその他とは関わりが非常に少ないもののゴミ当番等次のお宅へ直接伺い伝達を行っている。	※	日々の散歩、庭での野菜作り・花作りなどで関わりを持てるよう取組みたい。 夜間も含めて24時間灯がついている場所だから塾帰りの子供等、安全確保の逃げ込み場所を提供している。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 秋祭りに参加したい。 地藏盆等、お誘いを受けているので参加している。 (外部評価) 夏祭り、盆踊り等の地域行事に参加し、地域の方々と交流する機会を得ている。また、近所の幼稚園児が訪れたり、学生ボランティアを受け入れている。地域活動として、ごみ置場の管理・清掃を職員が定期的に担当している。地域の方から勧められたサロンへの参加も検討中である。	※	老人間のサロンなどに、気軽に参加できるよう取組みたい。 宮前地区サロン（場所）
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 高校生（福祉科）の実習生の受け入れをしている。	※	地域の会合などに積極的に参加したい。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) サービス評価の意義・目的を全職員に伝え、全職員で話し合いを持っていきたい。 (外部評価) 前回の評価結果を活かし、全職員で自己評価に取り組んでいる。職員がそれぞれ自己評価したものを管理者がまとめ上げ、運営者が加筆している。自己評価は見やすいように拡大し、全職員が目を通して共有している。自己評価の結果、取り組んでいきたいことを具体的に明確にしている。	※	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 参加者からの意見・要望を会議録で全職員に伝えている。 2ヶ月に1回の予定が遅れている。 (外部評価) 開催はやや遅れがちであるが、回数を重ねるごとに地域の民生委員や高齢者クラブの方から建設的なアドバイスが多数寄せられている。地域行事に参加したり、回覧板を回してもらうなど、少しずつ地域とのつながりができている。さらに、サロンへの参加や防災広報委員への協力依頼等にも取組みたいと考えている。	※	家族の方の出席者を増やしたい。 2ヶ月に1回行いたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営・サービス提供の相談をしました。 (外部評価) 運営法人の事務職員が行政上の相談等を市担当者にしており、ホームと行政とのパイプ役を果たしている。	※	常に連携を図っていきたい。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用している方がいるので、職員の理解は出来ていると思う。	※	全職員の理解を深めるため、研修への参加を取組みたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 申し送り、ミーティングで虐待に対しての話し合いが出来ていないので具体例をあげて話し合いをするようこころがけている。	※	新職員に対しては、個別に指導していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、丁寧にわかりやすい言葉で説明している。	※	利用者の立場に立ち、理解・納得を得られるよう取組みたい。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設けている。	※	意見・要望を出してもらう機会を多くつくり、利用者本位の運営を心がけたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) ・毎月、文書にて報告している。 ・来所持、利用者の様子を報告している。 ・心身の変化があった時は、即時に報告している。 ・希望があれば、ケース記録も見てもらっている。 (外部評価) 面会時には声をかけ、利用者の暮らしぶりや健康状態について詳細に伝えている。また、面会の少ない家族に対しても様子がよく分かるように管理者が毎月文書で全ての家族に報告している。さらに、ホーム便りを毎月発行し、誕生日会等の行事での様子を伝えている。なお、金銭管理については家族にお願いしている。	※	来所（面会）の少ない家族に対しても、電話などで報告したい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の方に何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに心掛けている。 苦情・不満に対しては、全職員で話し合い改善を心掛けている。 (外部評価) 面会時には声をかけ、要望等を聞いている。ホーム行事や地域行事への参加の際は家族にも協力を得ており、家族同士で話し合う機会を設けている。また、運営推進会議でも意見を表出できるよう、多くの家族の出席を促している。出された意見に対しては全職員で話し合い、改善に努めている。	※	家族の思いを全職員が共有出来る様取組みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングや個人的に、時間を設け全職員の意見を聞くようにしている。	※	全職員が意見を言いやすい雰囲気作りに取組みたい。一方的になってしまっているつもりではどうにもならない。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 急な退職など職員の定着が出来ておらず、勤務調整に柔軟に出来ていない。 介護スタッフのレベルアップについては非常に苦労している。	※	柔軟な体制が取れるよう、余裕を持った人員確保に取組みたい。 非常に苦労している。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 馴染みの職員が退職するにあたっては、引継ぎの面で努力している。 各ユニットの職員を固定化している。 現場は非常に苦労している。	※	新職員に代わる場合、利用者にきちんと紹介し、スムーズにケアが実施できる関係を作りたい。
			(外部評価) 法人内での異動や離職による管理者及び職員の入れ替わりが多い。運営者は、理念に基づくケアを全職員が実施しているため、異動による影響は少ないと考えている。しかし、利用者にとっては、生活を共にする管理者や職員との馴染みの関係を作り難い状況が続いている。	※	認知症の利用者にとって馴染みの管理者や職員から支援を受けることの重要性について再考することを期待する。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 勉強会・研修に参加している。 参加者が偏っている。 (研修に対応出来る職人が少ない) 指導が不徹底である。	※	研修報告書を全職員が閲覧できるようにし、全職員で共有したい。 母体の老健施設に1ヶ月実施のボードがあり、研修に出席し、レポート提出ー伝達講習の掲示がある。
			(外部評価) 法人内の研修で、認知症の専門家から講習を受けている。外部への研修は常勤職員が参加し、交通費の負担や出勤扱いにする等、研修を受けやすい体制となっている。しかし、全職員が研修内容を共有する場は設けられていない。	※	研修に参加した職員が伝達講習し、非常勤職員も含め全職員が研修内容を共有することで、技術の習得や知識を深め、サービスの向上につなげていくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) ・法人内の他の事業所との交流の機会が多い。 ・他グループホームの見学もし、意見や経験をケアに活かしている。 (外部評価) 法人の事務職員が、関連施設で催されるイベントについて情報提供し、利用者が希望するイベントに参加したり、法人内の勉強会に参加するなど、交流する機会を持っている。	※	交流を深め、サービスの質の向上につなげたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 面談の機会を持ち、不成功でもっと具体例をあげ職員のストレスや悩みを受け止めるようにしている。	※	上司のみでは無理、グループ全体で職員の話をよく聞き、ストレスや悩みを軽減できるようにしたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者も頻繁に来所し、また電話連絡などで職員の把握をしている。	※	各職員個々の個性・考え方を掌握し互いに尊敬し合い、長所を誉めあっていたい。 資格取得に向けた支援を行いたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面談で生活状況を把握するよう努め、本人の思いや不安を受け止めるよう努力している。	※	状況を把握し、信頼関係を作りたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面談でこれまでの経緯について詳しく聞いている。事業所の出来る対応について話し合っている。	※	ご家族が求めているものを理解し、話し合いたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族の思いや願いを確認し、必要と判断すれば他事業所と相談している。 (本人は認知症であるが本人の意思は受け取られる)	※	地域包括支援センターとも連携を図りたい。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人・家族の方に見学してもらっている。 本人が慣れること。 (外部評価) サービスを開始する前に、利用者のことをよく知る家族から情報を収集するために訪問している。また、本人及び家族に見学に来てもらい、ホームの雰囲気を知ってもらっている。入居後、利用者が気になっていること等を情報提供し、本人の意向を傾聴することで徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 支援する側・される側という意識を持たず、共に暮らす同士として共に支え合う関係づくりに留意している。 (年長者である利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう等) (外部評価) 職員が知らない戦争の話聞くことで昔のことを教わったり、利用者の気持ちを共有したりしている。昼食時、食事介助している職員の問いかけに、「おいしい。」と笑顔で答える利用者の姿は、介助者にも喜びを与えているように見受けられた。	※	利用者は人生の先輩であるという考えを全職員が共有してケアにあたりたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の思いを理解し、家族と同じような思いで支援していくことを伝えている。	※	家族の思いを聞き、意向を汲んだ上で共に支え合っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人の思いを家族の方へ伝え、家族の思いも職員が受け止めるように面会時のお手紙などで相談・報告を行っている。	※	面会が少ない利用者に対して、家族へのアプローチを積極的に取組みたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族・友人などの関係は途切れないよう支援している。馴染みの場所への外出の支援をしている。	※	本人の身体・精神の状態・本人を取り巻く周辺環境などを考慮の上、可能な範囲で支援に取組みたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 食事時、ティータイムの時に利用者同士の会話が弾むように職員が橋渡しの役割を行っている。	※	利用者同士の関係性について情報携帯し、全職員が共有出来るように取組みたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退居された家族からの連絡・相談があればのっている。在宅支援事業所のケアマネージャーとともに退所を試みる。	※	退居後も利用者の家族に対して継続的なフォローを全職員で取組みたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で本人の思いを行動や表情から汲み取りたり声掛けにて把握するよう努力している。 本人の意向を認める。 (外部評価) 言葉で思いや意向を表出できる利用者の場合は会話などから把握しているが、困難な場合は、問いかけに対する表情等で利用者の身になって把握に努めている。また、把握した時には日々のケアの中で小さなことでも職員間で共有できるようその都度伝え合っている。	※	家族からの情報も聞き一人ひとりの思いや意向に全職員が関心を持ち、把握に取組みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前訪問の時、本人・家族の方から状況を伺う。	※	家族に本人のバックグラウンドに関する情報の大切さを伝え、具体的な情報を把握したい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の生活の中で本人の生活のリズムを知る。	※	残存機能を理解し全体像を知る。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族と話し合いを持っている。 担当者会議を行いアセスメント、カンファレンスを行っている。 会議録を家族に渡している。 (外部評価) 入居後1週間、毎日利用者の心と身体の全体的なチェックをし、それを基に担当者会議を開き、本人や家族の希望を取り入れた介護計画を作成している。介護計画には、趣味や役割の欄を設け、利用者が自分らしく過ごせるよう工夫している。	※	全職員で共有し介護計画を作成している。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 状態・状況変化・家族、本人の要望に応じて見直しを行っている。 (外部評価) 利用者の状態が変化した場合には、担当者会議を開いて介護計画の見直しをしている。その際、本人や家族の希望を反映させている。	※ ※	その時々意見や気づきを活かし、臨機応変に介護計画の見直しに取組みたい。 状態変化が見られない場合も定期的に担当者会議を開き、全職員が意見を出し合いながら新たな計画を作成することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録している。 本人の言葉・行動を利用者の状態そのままに記録することを心掛けている。	※	気づき・工夫の記録・実践に取組みたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) ショートステイ・共用型デイサービスは現時点では実施していない。 老健・デイケア等、月間行事のボランティアの慰問などに参加している。 (外部評価) 医療連携体制を活かし、利用者にとって負担となる受診をできる限り往診にて対応している。法人関連施設で催されるイベントに、利用者が希望する内容の場合は参加できるように支援している。	※	今後導入を検討していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員・ボランティアへの協力を得ている。 非常に熱心に目をむけていただいている。	※	協力を得られるよう取組みたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 訪問理容サービスを利用している。 同一法人のケアマネジャー及び他事業所のケアマネジャーを合わせて地域連携の面で支援を受けている立場である。	※	他事業所との話し合いを持ちたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し意見・情報をいただいている。	※	2ヶ月に1回行い、情報交換・協力関係を築いていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。かかりつけ医の往診が2週間に一度あり変化があれば、定期往診以外も可能である。 (外部評価) 入居前からのかかりつけ医に診てもらえるよう、ほとんどの医療機関に対して往診を依頼している。往診できない医療機関の場合は家族に通院介助をお願いしているが、家族は頻繁に来院し常に利用者の様子を把握しており、受診報告も確実に行われている。	※	主治医と連携を取りながら、最適な医療が受けられるようにしていく。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症専門医の往診が2週間に一度ある。愛大医学部専門医及び当法人認知症受講医師が対応している。	※	2週間に一度の往診で対応しているが、状態によっては、専門病院へ受診の検討をしていきたい。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配慮しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。	※	主治医の往診時及び適時、相談している。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 利用者が入院した場合、入院先の担当医と情報交換を行っている。 退院に向けて、家族と病院関係者と連携を図っている。	※	早期に退院できるように関係者との連携を大切にしていきたい。
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 利用者の身体状況を把握し主治医・ご家族との連携を取り、話し合いを持っている。 入所時点で相談を行っている。 (外部評価) 重度化した場合や終末期のあり方について利用者及び家族の意向を確認している。医療連携体制をとり、看護師を複数名職員として配置して、利用者及び家族の希望に応じて看取りに取り組んでいる。状態変化の度に家族等との話し合いの機会を持ち、意向を再確認した上で希望に応じた対応に努めている。	※	全職員にミーティング等で話し合いを持ち、共有できるようにしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ホーム内のどこまでできるのかをミーティング時等に話し合っている。 本人・ご家族の方の意向を伺い、主治医との連携をとりグループホームで終末期を迎えるか、医療機関になるか入所時に決定しそれによってグループホームの限界及び対応を決める。	※	ご家族の方にも出来ること・出来ないことを十分に説明し、理解して頂けるようにしている。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) これまでの暮らしの継続性が損なわれないようにこれまでの生活環境、支援の内容など情報を提供し連携を心掛けている。 情報提供を主治医が書き介護サマリーを担当介護師が書く。	※	詳細な情報を集め、本人の環境・状況を把握している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 毎日の生活の関わり方を通して利用者を尊敬しプライバシーを守る。 言葉のかけ方に注意をする。 (外部評価) 利用者の尊厳に配慮し、穏やかなトーンでの温かい声かけを心がけ、実践している。食事の配膳時も丁寧に利用者の名前を呼び、一人ひとりを大切にしている様子がうかがえた。また、ホーム便りの写真掲載等は家族の同意を得ており、個人情報に関する書類等は事務室で保管するなど、適切に管理されている。	※	勉強会・ミーティングを通して職員の意識向上を図る。 日々の職員の声の音色、及び対話の仕方に注意する。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者に合わせて声かけをし、本人が決める環境を心掛けている。 利用者には自分の世界がある。それを常識を考えて介護者が納得し自己決定の支援をする。		意思表示が困難な利用者に対しても、思いを引き出せるような方法を検討していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の業務スケジュールに利用者の生活が合わされている部分もある。 理想的な事にはなかなかならないが目標としている。 (外部評価) 窓から外を見ている利用者がいれば、外出を希望していると推察して散歩に誘ったり、買い物の希望があれば一緒に同行する等、利用者本位の支援に努めている。また、食べるのが遅い利用者に対しては自分のペースでゆっくり食べられるよう配慮する等、一人ひとりのペースを大切にしている。	※	利用者一人ひとりのペースを守っていききたい。 職員の都合を押し付けない。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 月1回 訪問理容室が入っている。 家族とともに理容室に行っている。 着替えは基本的に本人の意向で決めている。 意思表示が出来ない利用者に対しては、本人が好んでいたものに着替えしてもらっている。	※	利用者・ご家族の希望に添って支援していききたい。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 昼食は利用者と全職員が同じものを食べている。 利用者の好みを踏まえたメニューを工夫している。 (外部評価) 一人ひとりに声をかけ、会話を楽しみながら食事している。重度化に伴い調理は難しい状況であるが、台拭きやお茶を入れることをお願いして、一緒に準備している。また、一人ひとりの好みを把握し、好みに合うよう盛り付け時にも工夫している。	※	利用者の持っている力を引き出し、諸君と一緒に準備、片付けをしている。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 煙草は職員が預かり、職員同伴にて戸外で喫煙している。	※	一人ひとりの好みの物の理解に努めていききたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 利用者の状況により、時間や習慣を把握しトイレ誘導・介助を行っている。 排泄パターンの把握を行って成功しているケースもある。	※	オムツの使用を減らし、可能な限りトイレで用を足す支援に取組みたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴予定表を作成し、その予定で入浴を行っている。 入浴を拒む人には、曜日・時間帯にとらわれず、また声かけなどを工夫している。 (外部評価) 入浴予定表を立てているが、利用者の健康状態等に応じて臨機応変に変更できる。拒否があった場合も、声かけを工夫して入浴できるよう対応している。重度化によりシャワー浴になった利用者には、法人関連施設の特殊浴槽を使い、浴槽に浸かれるよう支援している。	※	現在、週2～3回の予定で入っている。 それ以上希望される方はいないが、入浴も楽しみの一つとなるような工夫を考えたい。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの身体状況によって、ゆっくり休息がとれるよう支援している。	※	日中の活動を促し、生活リズムを整える支援をしたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえる役割・楽しみを職員が理解し支援している。 (外部評価) 利用者の重度化に伴い役割は減ってきているが、台拭きや洗濯物をたたむ等できることをお願いしている。利用者は、職員との会話や家族の来訪を楽しみにしているため、できるだけ話す時間をとり、行事に家族を招く等の支援をしている。	※ ※	一人ひとりに合った楽しみや役割を見つけて支援していきたい。 職員は、利用者の喜びにつながる楽しみごとや気晴らしの支援に取り組むたい気持ちは十分にあるが、現在は日々の業務をこなすことで精一杯の状態である。職員の定着を図り、ボランティアや介護相談員の導入等も視野に入れ、利用者が楽しく生き活きと生活できるよう工夫することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの力や希望に合わせて金銭管理の支援をしている。	※	日常生活の中で、金銭管理の機会を多く持ちそれを職員が支援していきたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩・買物・ドライブをしている。 (外部評価) 車いすの利用者を含め、ホーム近辺の散歩に出かけたり、ドライブに出かけたりしている。また、コンビニエンスストアやスーパーへ買い物に出かけられるよう同行している。	※	一人ひとりに添った外出支援をしていきたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 遠方への外出は個人的には困難な場合が多く、ご家族の力を借りる場合が多い。	※	勤務体制を調整したりして、可能な限り支援していきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように声掛けなどをして支援している。	※	定期的に利用者の全家族への（ハガキ）交流をしている。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも、気持ち良く訪問して頂けるような環境作りに心掛けている。	※	訪問時、自室でゆっくり過ごして頂けるように心掛けています。 他の利用者とも気兼ねなく過ごせして貰えるよう取組みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ミーティングや申し送りで身体的拘束について全職員で共有認識を図っている。	※	新職員には個人的に指導していく。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 業務スケジュールによって玄関の鍵を掛けている時もある。(夕食支度時が多い) 交通量の多い道路に近いので、道路側は鍵を掛けている。 (外部評価) 1階に2階ユニット用の玄関があるが、交通量の多い道路に面している上、1階ユニットからも目が届かないため、利用者の安全に配慮し、現在は玄関を1つにしている。外出しようとしている利用者には声をかけ、外出理由を聞いて対応している。また、近所の方やコンビニエンスストア店員から見守りの協力を得ている。	※	声かけの工夫をしたり、見守りの方法を徹底し、玄関に鍵を掛けないよう取組みたい。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中はフロアにいる職員が見守りを行っている。 夜間は一人で見守りを行っている為、フロア中央で見守りを行っている。特に1Fは交通量の多い道路に面しているため特に注意を払っている。	※	夜間見守りを静かに行っていく。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 洗剤・薬剤などは保管・管理している。	※	一人ひとりの状態に応じて最適な管理・保管に取組みたい。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハットの記録を残し、それをミーティング時に活用して事故防止対策をとっている。	※	ミーティング・勉強会で事故防止対策を全職員で検討していきたい、

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) ①看護師(職員)に連絡 ②主治医に連絡する→24時間体制 ③誤嚥、窒息、心臓マッサージなど消防署より模型にて研修を行っている	※	外部での研修にも全職員が参加できるように取組みたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。 (外部評価) 火災報知機の使用手順をよく目に付く場所につけ、職員が手順に従って操作できるようにしている。年2回の避難訓練を予定している。また、運営推進会議でのアドバイスを活かし、地域の協力が得られるよう、防災広報委員に協力を依頼する方針である。	※	推進会議で地域の方に協力して頂けるように働きかけている。近隣の職員がすぐ駆けつけられる体制を整備していきたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) ご家族の方に面会時に、利用者の状態を説明しリスクがあることを説明している。	※	特にベッドからの転落・車椅子からの転倒を危惧されているご家族に対して、実際の予防法をお伝えする。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 普段の状況を職員は把握しており少しでも変化があれば、看護師および管理者に報告した後、主治医に連絡を取っている。	※	異常の早期発見に努めていく。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人ファイルに内服薬の取り扱いに関する説明書を綴り、全職員がいつでも確認できるようにしている。	※	内服薬の変更・追加時は申し送りやミーティング時に看護師より全職員へ説明を行っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 自然排便出来るよう取組んでいる。 (繊維質の多い食材や乳製品を取り入れる。腹部マッサージ、身体を動かす機会を適度に持つ) ①管理栄養士の基本メニューを基本に調理している ②出来るだけ歩行を促す ③洋式トイレにて排便を促し腹部マッサージをする	※	自然排便できるように、継続して取組みたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、就寝時の歯磨き・義歯洗浄を実施している。	※	自立している人は声を掛け、各自に行ってもらっている。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士が献立を立てており、栄養バランスに配慮している。 脱水を防ぐ為に水分摂取量を把握している。 (外部評価) 法人関連施設の管理栄養士が栄養バランスを考えて献立を立て、利用者の好みに合うよう洋食を和食に変更してもらう等の工夫をしている。水分確保のため、食事の汁物は味に変化を持たせ、1日2回お茶の時間をとり、果物も多く提供している。	※	食事摂取量の記録を行い、摂取量が少ない時や体重減少があれば、主治医に相談している。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) ①ハイターによる便所消毒 ②うがい、手指消毒、全身入浴、下半身シャワー浴	※	感染症の流行に対応できるよう勉強会など実施し知識・技術の向上を努めたい。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板・布巾等は毎日漂白を行い、清潔を心掛けている。 食器消毒	※	新鮮野菜のボイル、冷凍を行い、食材の利用方法で鮮度を保持している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関に花をいけたり、タペストリー等で季節感を演出している。	※	近所の人が気軽に立ち寄ってくださるような雰囲気作りに取組みたい。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 建築設計、庭、生垣などハード面に留意しており季節の花、樹木の植栽など工夫を行っている。 (外部評価) 居間の窓が大きく、自然光がよく入り明るい。ベランダやウッドデッキも広く、続く中庭も広々として自然を感じることができる。車いすもゆったり通ることができるほど廊下も広い。季節の花を活け、観葉植物を置き、布製の壁飾りで上品で落ち着いたある共用空間となっている。	※	フロアの飾りつけ等を利用者と一緒に考えていきたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。 共有空間は娯楽、喫茶など自由に選ぶことができる。	※	一人で孤立した利用者には、利用者同士の関係作りをサポートしていきたい。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居前に本人・ご家族の方に普段から使われている物品を持ち込んでもらうように説明している。 (外部評価) 居室は広く、壁紙が均一でないため、それぞれ違った雰囲気になっている。畳の部屋もあるが、畳部分が1段高くなっていたため、利用者の身体機能の低下に伴いスロープをつけてバリアフリーにしている。箆箆や衣装ケースなど思い思いのものを持ち込み、自分らしい居室にしている。	※	利用者が居心地の良い生活が送れるよう各居室の物品を本人の希望に応じて整理している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気を行っている。 トイレは消臭剤と換気扇を使用している。 窓の面積は自然換気が充分配慮されている建物である。	※	利用者の様子を見ながら行っていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の状態に応じて最適な空間スペースを設け、安全確保と自立への配慮をしている。 心身の見守りが充分必要な利用者は介護者の机より常にガラス戸越しに見守る部屋になっている。	※	本人・家族の意向に添った安全な空間づくりを実施していきたい。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ウッドデッキがあり、お天気の良い日には日光浴や花の水やり等が行える環境も整備している。	※	車椅子を使用している方も楽しめるような配慮をしていきたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めているが、把握できていない面もあると思う。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1 毎日ある (自己 ② 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	お互いが協議しながら、一緒に過ごす様に心掛けている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人ひとり、その時点に沿った生活をサポートしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人ひとり、できる力・わかる力を生活の中で発見し、今後でも取り組んでいきたい。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	重度な介護状態の利用者も多く、外出に対しては個人差もある現状である。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	主治医との連携体制が完備されている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	本人・家族の意向を汲み、個々の生活習慣に合わせた生活をサポートしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	気軽に話し合える関係づくりができていると思う。つ面会時、電話等で連携をとっている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	地域のサロンへの訪問・GHへの訪問等予定しているが、実施できていない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	会議での質問・意見・要望等をもとに、地域との関係づくりが徐々にできている。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	理事長、管理者が職員の意見・要望を聞く機会を多く持ち、モチベーションを高め、勤務できるようサポートしたい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	喜び、満足を表現してくださる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	満足感、感謝の思いをいただいている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- プライバシーに配慮しながら、本人や家族と馴染みの関係を構築し、一人ひとりのニーズにあったプランのサポートを実施していきたい。
- 運営推進会議を通して、地域とのつながりを積極的に展開していきたい。
- 地域の行事等に参加したり、当グループホームにも訪問していただいたりする環境づくりに励みたい。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホーム しらさぎ
(ユニット名)	2F
記入者(管理者)	
氏名	家木美貴子
評価完了日	平成 20 年 3 月 23 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 利用者の方が住み慣れた場所で安心して、その人らしく過ごせるよう「自分らしく」を理念にあげている。 (外部評価) 開設時からの「自分らしく」という理念に地域密着型サービスとしての役割を加え、利用者が地域行事へ参加し、地域の方々との交流を通して、地域生活を継続させながら自分らしく過ごすことができるよう支援していくことを謳っている。	※	その人らしく生活することが出来るケアをスタッフ全員で取組んでいきたい。 ○趣味（手芸・料理・園芸・詩吟・書写） ○外出・買物 ○関係性の継続・地域生活の継続
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 申し送り、ミーティング時、理念に触れ理念を通じて具体的なケアについて話し合っている。 フロアーのよく目に付く場所に掲示している。 (外部評価) 利用者が自分らしく暮らすことができるよう、本人の希望に沿った支援をしていくことを申し送り時等に話し合い、一人ひとりを大切にケアを実践している。	※	新職員にも理念を通しての具体的なケア（言葉かけ・態度・記録等）を理解できるよう取組みたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ご家族には、来所時や毎月1回発行の『ホーム便り』にて伝えている。	※	地域の方々にも事業所の実践内容を伝えていきたい。 ご家族との話し合いの場を計画的に持ちたい（1ヶ月に1回）

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 隣のコンビニエンスストアへは日常的に買物に出かけているが、その他とは関わりが少ない。	※	日々の散歩、庭での野菜作り・花作りなどで関わりを持てるよう取組みたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 秋祭りに参加したい。 地藏盆等、お誘いを受けているので参加している。 (外部評価) 夏祭り、盆踊り等の地域行事に参加し、地域の方々と交流する機会を得ている。また、近所の幼稚園児が訪れたり、学生ボランティアを受け入れている。地域活動として、ごみ置場の管理・清掃を職員が定期的に担当している。地域の方から勧められたサロンへの参加も検討中である。	※	老人間のサロンなどに、気軽に参加できるよう取組みたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 高校生（福祉科）の実習生の受け入れをしている。	※	地域の会合などに積極的に参加したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) サービス評価の意義・目的を全職員に伝え、全職員で話し合いを持っていきたい。 (外部評価) 前回の評価結果を活かし、全職員で自己評価に取り組んでいる。職員がそれぞれ自己評価したものを管理者がまとめ上げ、運営者が加筆している。自己評価は見やすいように拡大し、全職員が目を通して共有している。自己評価の結果、取り組んでいきたいことを具体的に明確にしている。	※	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 参加者からの意見・要望を会議録で全職員に伝えている。 2ヶ月に1回の予定が遅れている。 (外部評価) 開催はやや遅れがちであるが、回数を重ねるごとに地域の民生委員や高齢者クラブの方から建設的なアドバイスが多数寄せられている。地域行事に参加したり、回覧板を回してもらうなど、少しずつ地域とのつながりができている。さらに、サロンへの参加や防災広報委員への協力依頼等にも取組みたいと考えている。	※	家族の方の出席者を増やしたい。 2ヶ月に1回行いたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営・サービス提供の相談をしました。 (外部評価) 運営法人の事務職員が行政上の相談等を市担当者にしており、ホームと行政とのパイプ役を果たしている。	※	常に連携を図っていきたい。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用している方がいるので、職員の理解は出来ていると思う。	※	全職員の理解を深めるため、研修への参加を取組みたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 申し送り、ミーティングで虐待に対しての話し合いを持っている。	※	新職員に対しては、個別に指導していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、丁寧にわかりやすい言葉で説明している。	※	利用者の立場に立ち、理解・納得を得られるよう取組みたい。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設けている。	※	意見・要望を出してもらう機会を多くつくり、利用者本位の運営を心がけたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) ・毎月、文書にて報告している。 ・来所持、利用者の様子を報告している。 ・心身の変化があった時は、即時に報告している。 ・希望があれば、ケース記録も見てもらっている。	※	来所（面会）の少ない家族に対しても、電話などで報告したい。
			(外部評価) 面会時には声をかけ、利用者の暮らしぶりや健康状態について詳細に伝えている。また、面会の少ない家族に対しても様子がよく分かるように管理者が毎月文書で全ての家族に報告している。さらに、ホーム便りを毎月発行し、誕生日会等の行事での様子を伝えている。なお、金銭管理については家族にお願いしている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の方に何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに心掛けている。 苦情・不満に対しては、全職員で話し合い改善を心掛けている。	※	家族の思いを全職員が共有出来る様取組みたい。
			(外部評価) 面会時には声をかけ、要望等を聞いている。ホーム行事や地域行事への参加の際は家族にも協力を得ており、家族同士で話し合う機会を設けている。また、運営推進会議でも意見を表出できるよう、多くの家族の出席を促している。出された意見に対しては全職員で話し合い、改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングや個人的に、時間を設け全職員の意見を聞くようにしている。	※	全職員が意見を言いやすい雰囲気作りに取組みたい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 介護スタッフのレベルアップについては非常に苦勞している。	※	柔軟な体制が取れるよう、余裕を持った人員確保に取組みたい。 非常に苦勞している。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 馴染みの職員が退職するにあたっては、引継ぎの面で努力している。 各ユニットの職員を固定化している。 現場は非常に苦勞している。	※	新職員に代わる場合、利用者నికిちゃんと紹介し、スムーズにケアが実施できる関係を作りたい。
			(外部評価) 法人内での異動や離職による管理者及び職員の入れ替わりが多い。運営者は、理念に基づくケアを全職員が実施しているため、異動による影響は少ないと考えている。しかし、利用者にとっては、生活を共にする管理者や職員との馴染みの関係を作り難い状況が続いている。	※	認知症の利用者にとって馴染みの管理者や職員から支援を受けることの重要性について再考することを期待する。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 勉強会・研修に参加している。 参加者が偏っている。	※	研修報告書を全職員が閲覧できるようにし、全職員で共有したい。
			(外部評価) 法人内の研修で、認知症の専門家から講習を受けている。外部への研修は常勤職員が参加し、交通費の負担や出勤扱いにする等、研修を受けやすい体制となっている。しかし、全職員が研修内容を共有する場は設けられていない。	※	研修に参加した職員が伝達講習し、非常勤職員も含め全職員が研修内容を共有することで、技術の習得や知識を深め、サービスの向上につなげていくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) ・法人内の他の事業所との交流の機会が多い。 ・他グループホームの見学もし、意見や経験をケアに活かしている。 (外部評価) 法人の事務職員が、関連施設で催されるイベントについて情報提供し、利用者が希望するイベントに参加したり、法人内の勉強会に参加するなど、交流する機会を持っている。	※	交流を深め、サービスの質の向上につなげたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 面談の機会を持ち、不成功でもっと具体例をあげ職員のストレスや悩みを受け止めるようにしている。	※	個別的に職員の話をよく聞き、ストレスや悩みを軽減できるようにしたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者も頻繁に来所し、また電話連絡などで職員の把握をしている。	※	各職員個々の個性・考え方を掌握し互いに尊敬し合い、長所を誉めあっていたい。 資格取得に向けた支援を行いたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面談で生活状況を把握するよう努め、本人の思いや不安を受け止めるよう努力している。	※	状況を把握し、信頼関係を作りたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面談でこれまでの経緯について詳しく聞いている。事業所の出来る対応について話し合っている。	※	ご家族が求めているものを理解し、話し合いたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族の思いや願いを確認し、必要と判断すれば他事業所と相談している。 (本人は認知症であるが本人の意思は受け取られる)	※	地域包括支援センターとも連携を図りたい。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人・家族の方に見学してもらっている。 (外部評価) サービスを開始する前に、利用者のことをよく知る家族から情報を収集するために訪問している。また、本人及び家族に見学に来てもらい、ホームの雰囲気を知ってもらっている。入居後、利用者が気になっていること等を情報提供し、本人の意向を傾聴することで徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 支援する側・される側という意識を持たず、共に暮らす同士として共に支え合う関係づくりに留意している。 (外部評価) 職員が知らない戦争の話聞くことで昔のことを教わったり、利用者の気持ちを共有したりしている。昼食時、食事介助している職員の問いかけに、「おいしい。」と笑顔で答える利用者の姿は、介助者にも喜びを与えているように見受けられた。	※	利用者は人生の先輩であるという考えを全職員が共有してケアにあたりたい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の思いを理解し、家族と同じような思いで支援していくことを伝えている。	※	家族の思いを聞き、意向を汲んだ上で共に支え合っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人の思いを家族の方へ伝え、家族の思いも職員が受け止めるように面会時のお手紙などで相談・報告を行っている。	※	面会が少ない利用者に対して、家族へのアプローチを積極的に取組みたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族・友人などの関係は途切れないよう支援している。馴染みの場所への外出の支援をしている。	※	本人の身体・精神の状態・本人を取り巻く周辺環境などを考慮の上、可能な範囲で支援に取組みたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 食事時、ティータイムの時に利用者同士の会話が弾むように職員が橋渡しの役割を行っている。	※	利用者同士の関係性について情報携帯し、全職員が共有出来るように取組みたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退居された家族からの連絡・相談があればのっている。	※	退居後も利用者の家族に対して継続的なフォローを全職員で取組みたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で本人の思いを行動や表情から汲み取りたり声掛けにて把握するよう努力している。 本人の意向を認める。 (外部評価) 言葉で思いや意向を表出できる利用者の場合は会話などから把握しているが、困難な場合は、問いかけに対する表情等で利用者の身になって把握に努めている。また、把握した時には日々のケアの中で小さなことでも職員間で共有できるようその都度伝え合っている。	※	家族からの情報も聞き一人ひとりの思いや意向に全職員が関心を持ち、把握に取組みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前訪問の時、本人・家族の方から状況を伺う。	※	家族に本人のバックグラウンドに関する情報の大切さを伝え、具体的な情報を把握したい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の生活の中で本人の生活のリズムを知る。	※	残存機能を理解し全体像を知る。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族と話し合いを持っている。 担当者会議を行いアセスメント、カンファレンスを行っている。 会議録を家族に渡している。 <hr/> (外部評価) 入居後1週間、毎日利用者の心と身体の全体的なチェックをし、それを基に担当者会議を開き、本人や家族の希望を取り入れた介護計画を作成している。介護計画には、趣味や役割の欄を設け、利用者が自分らしく過ごせるよう工夫している。	※	全職員で共有し介護計画を作成している。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 状態・状況変化・家族、本人の要望に応じて見直しを行っている。 <hr/> (外部評価) 利用者の状態が変化した場合には、担当者会議を開いて介護計画の見直しをしている。その際、本人や家族の希望を反映させている。	※ ※	その時々々の意見や気付きを活かし、臨機応変に介護計画の見直しに取組みたい。 状態変化が見られない場合も定期的に担当者会議を開き、全職員が意見を出し合いながら新たな計画を作成することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録している。 本人の言葉・行動を利用者の状態そのままに記録することを心掛けている。	※	気づき・工夫の記録・実践に取組みたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) ショートステイ・共用型デイサービスは現時点では実施していない。 (外部評価) 医療連携体制を活かし、利用者にとって負担となる受診をできる限り往診にて対応している。法人関連施設で開催されるイベントに、利用者が希望する場合の参加できるように支援している。	※	今後導入を検討していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員・ボランティアへの協力を得ている。	※	協力を得られるよう取組みたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 訪問理容サービスを利用している。	※	他事業所との話し合いを持ちたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し意見・情報をいただいている。	※	2ヶ月に1回行い、情報交換・協力関係を築いていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。かかりつけ医の往診が2週間に一度あり変化があれば、定期往診以外も可能である。 (外部評価) 入居前からのかかりつけ医に診てもらえるよう、ほとんどの医療機関に対して往診を依頼している。往診できない医療機関の場合は家族に通院介助をお願いしているが、家族は頻繁に来訪し常に利用者の様子を把握しており、受診報告も確実に行われている。	※	主治医と連携を取りながら、最適な医療が受けられるようにしていく。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症専門医の往診が2週間に一度ある。愛大医学部専門医及び当法人認知症受講医師が対応している。	※	2週間に一度の往診で対応しているが、状態によっては、専門病院へ受診の検討をしていきたい。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配慮しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。	※	主治医の往診時及び適時、相談している。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 利用者が入院した場合、入院先の担当医と情報交換を行っている。 退院に向けて、家族と病院関係者と連携を図っている。	※	早期に退院できるように関係者との連携を大切にしていきたい。
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 利用者の身体状況を把握し主治医・ご家族との連携を取り、話し合いを持っている。 入所時点で相談を行っている。 (外部評価) 重度化した場合や終末期のあり方について利用者及び家族の意向を確認している。医療連携体制をとり、看護師を複数名職員として配置して、利用者及び家族の希望に応じて看取りに取り組んでいる。状態変化の度に家族等との話し合いの機会を持ち、意向を再確認した上で希望に応じた対応に努めている。	※	全職員にミーティング等で話し合いを持ち、共有できるようにしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ホーム内のどこまでできるのかをミーティング時等に話し合っている。 本人・ご家族の方の意向を伺い、主治医との連携をとりグループホームで終末期を迎えるか、医療機関になるか入所時に決定しそれによってグループホームの限界及び対応を決める。	※	ご家族の方にも出来ること・出来ないことを十分に説明し、理解して頂けるようにしている。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) これまでの暮らしの継続性が損なわれないようにこれまでの生活環境、支援の内容など情報を提供し連携を心掛けている。	※	詳細な情報を集め、本人の環境・状況を把握している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	(自己評価) 毎日の生活の関わり方を通して利用者を尊敬しプライバシーを守る。 言葉のかけ方に注意をする。 (外部評価) 利用者の尊厳に配慮し、穏やかなトーンでの温かい声かけを心がけ、実践している。食事の配膳時も丁寧に利用者の名前を呼び、一人ひとりを大切にしている様子がうかがえた。また、ホーム便りの写真掲載等は家族の同意を得ており、個人情報に関する書類等は事務室で保管するなど、適切に管理されている。	※	勉強会・ミーティングを通して職員の意識向上を図る。 日々の職員の声の音色、及び対話の仕方に注意する。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者に合わせて声かけをし、本人が決める環境を心掛けている。 利用者には自分の世界がある。それを常識を考えて介護者が納得し自己決定の支援をする。		意思表示が困難な利用者に対しても、思いを引き出せるような方法を検討していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の業務スケジュールに利用者の生活が合わされている部分もある。 理想的な事にはなかなかならないが目標としている。 (外部評価) 窓から外を見ている利用者がいれば、外出を希望していると推察して散歩に誘ったり、買い物の希望があれば一緒に同行する等、利用者本位の支援に努めている。また、食べるのが遅い利用者に対しては自分のペースでゆっくり食べられるよう配慮する等、一人ひとりのペースを大切にしている。	※	利用者一人ひとりのペースを守っていききたい。 職員の都合を押し付けない。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 月1回 訪問理容室が入っている。 家族とともに理容室に行っている。 着替えは基本的に本人の意向で決めている。 意思表示が出来ない利用者に対しては、本人が好んでいたものに着替えしてもらっている。	※	利用者・ご家族の希望に添って支援していききたい。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 昼食は利用者と全職員が同じものを食べている。 利用者の好みを踏まえたメニューを工夫している。 (外部評価) 一人ひとりに声をかけ、会話を楽しみながら食事している。重度化に伴い調理は難しい状況であるが、台拭きやお茶を入れることをお願いして、一緒に準備している。また、一人ひとりの好みを把握し、好みに合うよう盛り付け時にも工夫している。	※	利用者の持っている力を引き出し、職員と一緒に準備、片付けをしている。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 煙草は職員が預かり、職員同伴にて戸外で喫煙している。	※	一人ひとりの好みの物の理解に努めていききたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 利用者の状況により、時間や習慣を把握しトイレ誘導・介助を行っている。 排泄パターンの把握を行って成功しているケースもある。	※	オムツの使用を減らし、可能な限りトイレで用を足す支援に取組みたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴予定表を作成し、その予定で入浴を行っている。 入浴を拒む人には、曜日・時間帯にとらわれず、また声かけなどを工夫している。 (外部評価) 入浴予定表を立てているが、利用者の健康状態等に応じて臨機応変に変更できる。拒否があった場合も、声かけを工夫して入浴できるよう対応している。重度化によりシャワー浴になった利用者には、法人関連施設の特設浴槽を使い、浴槽に浸かれるよう支援している。	※	現在、週2～3回の予定で入浴している。 それ以上希望される方はいないが、入浴も楽しみの一つとなるような工夫を考えたい。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの身体状況によって、ゆっくり休息がとれるよう支援している。	※	日中の活動を促し、生活リズムを整える支援をしたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえる役割・楽しみを職員が理解し支援している。 (外部評価) 利用者の重度化に伴い役割は減ってきているが、台拭きや洗濯物をたたむ等できることをお願いしている。利用者は、職員との会話や家族の来訪を楽しみにしているため、できるだけ話す時間をとり、行事に家族を招く等の支援をしている。	※ ※	一人ひとりに合った楽しみや役割を見つけて支援していきたい。 職員は、利用者の喜びにつながる楽しみごとや気晴らしの支援に取り組みたい気持ちは十分にあるが、現在は日々の業務をこなすことで精一杯の状態である。職員の定着を図り、ボランティアや介護相談員の導入等も視野に入れ、利用者が楽しく生き活きと生活できるよう工夫することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの力や希望に合わせて金銭管理の支援をしている。	※	日常生活の中で、金銭管理の機会を多く持ちそれを職員が支援していきたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩・買物をしている。 (外部評価) 車いすの利用者を含め、ホーム近辺の散歩に出かけたり、ドライブに出かけたりしている。また、コンビニエンスストアやスーパーへ買い物に出かけられるよう同行している。	※	一人ひとりに添った外出支援をしていきたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 遠方への外出は個人的には困難な場合が多く、ご家族の力を借りる場合が多い。	※	勤務体制を調整したりして、可能な限り支援していきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように声掛けなどをして支援している。	※	定期的に利用者の全家族への（ハガキ）交流をしている。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも、気持ち良く訪問して頂けるような環境作りに心掛けている。	※	訪問時、自室でゆっくり過ごして頂けるように心掛けています。 他の利用者とも気兼ねなく過ごせして貰えるよう取組みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ミーティングや申し送りで身体的拘束について全職員で共有認識を図っている。	※	新職員には個人的に指導していく。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 業務スケジュールによって玄関の鍵を掛けている時もある。(夕食支度時が多い) 交通量の多い道路に近いため、道路側は鍵を掛けている。	※	声かけの工夫をしたり、見守りの方法を徹底し、玄関に鍵を掛けないよう取組みたい。
			(外部評価) 1階に2階ユニット用の玄関があるが、交通量の多い道路に面している上、1階ユニットからも目が届かないため、利用者の安全に配慮し、現在は玄関を1つにしている。外出しようとしている利用者には声をかけ、外出理由を聞いて対応している。また、近所の方やコンビニエンスストア店員から見守りの協力を得ている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中はフロアにいる職員が見守りを行っている。 夜間は一人で見守りを行っている為、フロア中央で見守りを行っている。	※	夜間見守りを静かに行っていく。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 洗剤・薬剤などは保管・管理している。	※	一人ひとりの状態に応じて最適な管理・保管に取組みたい。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハットの記録を残し、それをミーティング時に活用して事故防止対策をとっている。	※	ミーティング・勉強会で事故防止対策を全職員で検討していきたい、

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) ①看護師(職員)に連絡 ②主治医に連絡する→24時間体制 ③誤嚥、窒息、心臓マッサージなど消防署より模型にて研修を行っている	※	外部での研修にも全職員が参加できるように取組みたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。 (外部評価) 火災報知機の使用手順をよく目に付く場所につけ、職員が手順に従って操作できるようにしている。年2回の避難訓練を予定している。また、運営推進会議でのアドバイスを活かし、地域の協力が得られるよう、防災広報委員に協力を依頼する方針である。	※	推進会議で地域の方に協力して頂けるように働きかけている。 近隣の職員がすぐ駆けつけられる体制を整備していきたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) ご家族の方に面会時に、利用者の状態を説明しリスクがあることを説明している。	※	特にベッドからの転落・車椅子からの転倒を危惧されているご家族に対して、実際の予防法をお伝えする。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 普段の状況を職員は把握しており少しでも変化があれば、看護師および管理者に報告した後、主治医に連絡を取っている。	※	異常の早期発見に努めていく。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人ファイルに内服薬の取り扱いに関する説明書を綴り、全職員がいつでも確認できるようにしている。	※	内服薬の変更・追加時は申し送りやミーティング時に看護師より全職員へ説明を行っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 自然排便出来るよう取組んでいる。 (繊維質の多い食材や乳製品を取り入れる。腹部マッサージ、身体を動かす機会を適度に持つ) ①管理栄養士の基本メニューを基本に調理している ②出来るだけ歩行を促す ③洋式トイレにて排便を促し腹部マッサージをする	※	自然排便できるように、継続して取組みたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、就寝時の歯磨き・義歯洗浄を実施している。	※	自立している人は声を掛け、各自に行ってもらっている。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士が献立を立てており、栄養バランスに配慮している。 脱水を防ぐ為に水分摂取量を把握している。 (外部評価) 法人関連施設の管理栄養士が栄養バランスを考えて献立を立て、利用者の好みに合うよう洋食を和食に変更してもらう等の工夫をしている。水分確保のため、食事の汁物は味に変化を持たせ、1日2回お茶の時間をとり、果物も多く提供している。	※	食事摂取量の記録を行い、摂取量が少ない時や体重減少があれば、主治医に相談している。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) ①ハイターによる便所消毒 ②うがい、手指消毒、全身入浴、下半身シャワー浴	※	感染症の流行に対応できるよう勉強会など実施し知識・技術の向上を努めたい。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板・布巾等は毎日漂白を行い、清潔を心掛けている。 食器消毒	※	新鮮で安全な食材を使用する為、毎日買い物に出かけて、なるべく買いだめをしないようにしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関に花をいけたり、タペストリー等で季節感を演出している。	※	近所の人が気軽に立ち寄ってくださるような雰囲気作りに取組みたい。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 建築設計、庭、生垣などハード面に留意しており季節の花、樹木の植栽など工夫を行っている。 (外部評価) 居間の窓が大きく、自然光がよく入り明るい。ベランダやウッドデッキも広く、続く中庭も広々として自然を感じることができる。車いすもゆったり通ることができるほど廊下も広い。季節の花を活け、観葉植物を置き、布製の壁飾りで上品で落ち着いた感のある共用空間となっている。	※	フロアの飾りつけ等を利用者と一緒に考えていきたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。 共有空間は娯楽、喫茶など自由に選ぶことができる。	※	一人で孤立した利用者には、利用者同士の関係作りをサポートしていきたい。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居前に本人・ご家族の方に普段から使われている物品を持ち込んでもらうように説明している。 (外部評価) 居室は広く、壁紙が均一でないため、それぞれ違った雰囲気になっている。畳の部屋もあるが、畳部分が1段高くなっていたため、利用者の身体機能の低下に伴いスロープをつけてバリアフリーにしている。箆箆や衣装ケースなど思い思いのものを持ち込み、自分らしい居室にしている。	※	利用者が居心地の良い生活が送れるよう各居室の物品を本人の希望に応じて整理している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気を行っている。 トイレは消臭剤と換気扇を使用している。 窓の面積は自然換気が充分配慮されている建物である。	※	利用者の様子を見ながら行っていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の状態に応じて最適な空間スペースを設け、安全確保と自立への配慮をしている。 心身の見守りが充分必要な利用者は介護者の机より常にガラス戸越しに見守る部屋になっている。	※	本人・家族の意向に添った安全な空間づくりを実施していきたい。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ウッドデッキがあり、お天気の良い日には日光浴や花の水やり等が行える環境も整備している。	※	車椅子を使用している方も楽しめるような配慮をしていきたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めているが、把握できていない面もあると思う。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1 毎日ある (自己 ② 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	お互いが協議しながら、一緒に過ごす様に心掛けている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人ひとり、その時点に沿った生活をサポートしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人ひとり、できる力・わかる力を生活の中で発見し、今後でも取り組んでいきたい。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	重度な介護状態の利用者も多く、外出に対しては個人差もある現状である。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	主治医との連携体制が完備されている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	本人・家族の意向を汲み、個々の生活習慣に合わせた生活をサポートしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	気軽に話し合える関係づくりができていると思う。つ面会時、電話等で連携をとっている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	地域のサロンへの訪問・GHへの訪問等予定しているが、実施できていない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	会議での質問・意見・要望等をもとに、地域との関係づくりが徐々にできている。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	理事長、管理者が職員の意見・要望を聞く機会を多く持ち、モチベーションを高め、勤務できるようサポートしたい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	認知症の人がどこまで満足しているか、難しい判断のときがある。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	満足感、感謝の思いをいただいていると思うが、介護のレベルを上げる事について、まだまだ満足していただける段階に至っていないことを感じる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

○プライバシーに配慮しながら、本人や家族と馴染みの関係を構築し、一人ひとりのニーズにあったプランのサポートを実施していきたい。

○運営推進会議を通して、地域とのつながりを積極的に展開していきたい。

○地域の行事等に参加したり、当グループホームにも訪問していただいたりする環境づくりに励みたい。